

## 【今日の説教から】

先週はマタイ 28 章にあります主の大宣教命令を読みました。

「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を受けられた。それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子とし…」とありました。

主が最高の権威者であり、力あるお方であるがゆえに、それゆえにそのお方の弟子と導くことに意味があります。

「時期や場合は、父がご自分の権威によって定めておられる…ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」

この箇所でも明確に、私たちは父なる神様の権威と力とによって聖霊をいただき、イエス・キリストの証しをする者であることが記されています。「権威」という言葉には権利、能力、超自然的な力、統治する力という意味があります。

聖霊が下るとき、私たちもまた権威者から授かった力を受け、この世の中を全て統治するお方からの力を受けてイエス・キリストの証し人とされるのです。そのための証印が聖霊です。そのための支えが、そのための後ろ盾が聖霊です。聖霊は私たちに下り、私たちのうちに入り、共に住み、私たちを神様の力に満たし、必ずや私たちを、地の果てまでもイエスキリストの証人としてくださるのです。「世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」と語られる主を頼みとして今週も進みましょう。

皆様おはようございます。

少し前の夏のような暑さから打って変わり、肌寒さをも感じる、梅雨の前兆を感じる突然の雨と、また風の強い先週の日々を過ごしました。皆様お元気にお過ごして下さい。

いよいよ来週はペンテコステです。

「聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」

この出来事が教会を励まし支え、教会は今も全世界にあって成長を続けています。

私たちもまた、聖霊の力によって今週も力強く生かしていただきたいとの願いと共に御言葉を読み進めてまいりましょう。

先週の箇所にはこのような言葉がありました。

マタイ 28:18 イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を受けられた。

28:19 それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

28:20 あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。

この「権威」という言葉は、本当に力強い言葉です。それは、権利、能力、超自然的な力、統治する力という意味です。

力があるので権威があるので。治める力があるから権威者であり、統治者なのです。天においても、地においても一切の権威のあるお方。力に満ち、力にみなぎり、そして天も地もすべてを司るお方。それがイエス様であることが語られています。その力あるお方。神というほかはないお方を伝え、そのお方の弟子とお導きするという私たちの働きは、何と光栄に満ちたものなのでしょうか。「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」と語られるイエス様が私たちの務めを導いてくださいます。

そして今日の御言葉です。今日の箇所にも「権威」という言葉が出てきます。

1:3 イエスは苦難を受けたのち、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のこと語られた。

1:4 そして食事を共にしているとき、彼らにお命じになった、「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。

1:5 すなわち、ヨハネは水でバプテスマを受けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを受けられるであろう」。

1:6 さて、弟子たちが一緒に集まったとき、イエスに問うて言った、「主よ、イスラエルのために國を復興なさるのは、この時なのですか」。

1:7 彼らに言われた、「時期や場合は、父がご自分の権威によって定めておられるのであって、あなたがたの知る限りではない。

イエス様はこの7週間、49日のうちの実に40日もの間弟子たちと共に過ごされました。いえ、この3節で言っているタイミングがペンテコステの日の手前のタイミングであるのならば、もっと多くの日々を弟子たちと共に過ごされたことになります。

「イエスは苦難を受けたのち、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のこと語られた」

イエス様は苦難をお受けになられ、わたくしたちのがないと救いのために十字架に死なれましたが、父なる神様の力によって復活され、そしてご自分が確かにしに勝利して復活なり、生きておられることを数々の確かな証拠によって示し、それは実に40日にわたって示

され続けたという事がこの節には書いてあります。そしてイエス様は最後頃にこう語られたのです。

「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖靈によって、バプテスマを受けられるであろう」

聖靈のバプテスマ。それはどういうことなのでしょうか。それはペンテコステの日に明らかになりました。

1:6 さて、弟子たちが一緒に集まったとき、イエスに問うて言った、「主よ、イスラエルのために国を復興なさるのは、この時なのですか」。

間もなく聖靈によりバプテスマを受ける。それはヨハネが水によって授けたもののようにないと聞かされれば、それはいつ与えられるのかという事が気にもなるというものでしょう。またそれは同時に、ローマの属領となり下がってしまったイスラエルの国の復興とも関係があると弟子たちは考えました。

1:7 彼らに言われた、「時期や場合は、父がご自分の権威によって定めておられるのであって、あなたがたの知る限りではない。

1:8 ただ、聖靈があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

時期や場合は父がご自分の権威によって定められる。

時期と場合とは、どちらも時という似た意味のように思われますが、ギリシャ語では「クロノス」と「カイロス」という二つの言葉で表されます。クロノスとは、時計の針が一秒一秒正確に動いて時を示す、何年、何月、何日、何時何分何秒という時間のことを指します。一方カイロスとは、絶好の時期として出来事が起こった時、特別な出来事が起こった時、ちょうどよい時、定められた時という、その時、その一瞬がほかのどんな時間よりも際立って特別な時となっているというような意味で使う言葉です。神様は権威をもって、長い長い時間枠を支配され、そして特別な出来事もまた司っておられるという事です。

ある人にとって一年という時を、とてつもなく長い時間ととらえる人もいれば、あっという間だと捉える人もいます。今日は6月1日ですが、この日を何の日でもないと考える人もいれば、6月1日を忘れることのできない時ととらえる人もいます。そういう長い時間の幅の

中の時間をも、特別な機会としての時をも統べ治めておられるのが神様です。

### 伝道者(コヘレト)の書

- 3:1 天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。  
3:2 生るるに時があり、死ぬるに時があり、植えるに時があり、植えたものを抜くに時があり、  
3:3 殺すに時があり、いやすに時があり、こわすに時があり、建てるに時があり、  
3:4 泣くに時があり、笑うに時があり、悲しむに時があり、踊るに時があり、  
3:5 石を投げるに時があり、石を集めると時があり、抱くに時があり、抱くことをやめるに時があり、  
3:6 捜すに時があり、失うに時があり、保つに時があり、捨てるに時があり、  
3:7 裂くに時があり、縫うに時があり、黙るに時があり、語るに時があり、  
3:8 愛するに時があり、憎むに時があり、戦うに時があり、和らぐに時がある。  
3:9 働く者はその労することにより、なんの益を得るか。  
3:10 わたしは神が人の子らに与えて、ほねおらせられる仕事を見た。  
3:11 神のなされることは皆その時にかなって美しい。神はまた人の心に永遠を思う思いを受けられた。それでもなお、人は神のなされるわざを始めから終りまで見きわめることはできない。

1:7 彼らに言われた、「時期や場合は、父がご自分の権威によって定めておられるのであって、あなたがたの知る限りではない。

1:8 ただ、聖霊があながたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

神様は権威と力とに満ちておられます。超自然的な力、統治する力に満ちておられ、知恵と力と満ちておられ、私たちの理解をはるかに超えた永遠のお方でいらっしゃいます。私たちが時を見極めることなど到底できません。私たちが速いとか遅いとか、この日であるべきだとか、そんなことを神様がお決めになられることに対してもいちいち口を差しはさむことはできないのです。

しかし私たちもまた力を受けることが出来るのです。それが神様から下される聖霊による力です。

1:8 ただ、聖霊があながたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

聖霊による力。それは私たちが主イエス様を証しするために与えられる力なのです。近くから、遠くまで、地の果てまで、世界中にわたってイエス様のことを証しする、証言する。そういうことが出来るというのが私たちの力です。

1:9 こう言い終ると、イエスは彼らの見ている前で天に上げられ、雲に迎えられて、その姿が見えなくなった。

1:10 イエスの上って行かれるとき、彼らが天を見つめていると、見よ、白い衣を着たふたりの人が、彼らのそばに立っていて

1:11 言った、「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」。

弟子たちは茫然として天を見てたたずんでいました。

天使は言いました。「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」

さあ、ぼうっとして天を見上げていないで、前を向いて働きなさい。イエス様のことを証しなさい。イエス様がいつ戻られるか、私たちが召されていつ天国に入るか、そんなことはどうでもいいことだ、私たちは聖霊の力を頂いて目の前にある証しの務めに励むのだと語られているのです。

私たちは漠然と不安になったり、先のことを心配したり、どうにも変えることのできない将来のことを空想したり悩んだり、過去のことに捕らわれくよくよしたりしがちですが、今を生きる。聖霊の力により今証しに生きるという事を教えられるのです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

権威ある、力ある方が、統べ治める力のあるお方がお定めになったことが私たちの身にも起こりました。「聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける」、そして「地の果てに至るまで、わたしの証人となる」とのお言葉をありがとうございます。力と愛と恵みにあふれた私たちの主イエス様を証しできることは、そして聖霊の力によって証しできることは、

私たちの喜びです。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安  
の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。  
私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン